

新審査会員・会友の紹介

5月15日(日)総会、写真道展表彰式の後、すみれホテルで開かれた「写真道展祝賀会」で、写真道展審査会員・会友認定授与が行われました。

登壇の皆さんは、緊張感の中にも表情に安堵と笑顔がうかがえました。

審査会員2名、会友9名



- 右から 新会友
- 伊藤 勝利 旭川
- 森川 行雄 芦別
- 中川 ミエ子 釧路
- 壬生 賢哉 苫小牧
- 佐藤 俊晴 室蘭
- 荻田 貞子 札幌
- 香取 征子 札幌
- 坂本 幸夫 札幌
- (欠席) 村上和子
- 新審査委員
- 馬場 和美 旭川
- 秋山 寿子 札幌

今年も実施——「支部例会作品フォトコンテスト」

支部活動の基本である例会の活性化と写真技術の向上を促す「支部例会作品コンテスト」を今年も実施します。

- ・応募期間 5〜11月例会作品
 - ・対象 例会1〜3位 上位作品3点
 - ・応募締切 11月30日 厳守
 - ・会員の未発表作品に限ります。
- 同じ作品の道展への応募は可能です。

支部探訪—根室

支部長 田村 允睦

日本列島で最東端です

古い歴史と、多くの文化遺産がある根室市は、厳しい自然に耐えながらも、豊かな漁業資源に活力を見出して、かつては千島列島を中心とした北方漁業の拠点都市として本道を代表する漁業の町として繁栄してきました。

ところがソビエト200カイリ内のサケ・マス流し網漁が今年から禁止となり、水産加工や運輸等関連産業に185億もの影響が出る試算され、国は100億円規模の緊急対策費を予算化しましたが、水産は根室の基幹産業だけに街はいま大きく揺れています。

さらにもう一つの難問は皆様ご存知の北方領土問題です。

海のかなたに見える国後・択捉・歯舞・色丹の4島一括返還を願って叫び続ける街でもあります。

現在の会員4名

根室支部はここ2年程で2名の仲間が札幌に転居し、現時点では4名が会員です。今年写真道展大賞受賞の小林正輔さん・辻の内弘さん・武田哲雄さん、支部長、田村允睦たちが新会員加入を呼び掛けていますが、写真道展はレベルが高いと二の足を踏む人たちが多いのはとても残念です。

支部から大賞 小林正輔さん

今年度「朝焼けのなか」で写真道展大賞と

環境大臣賞を根室支部の小林正輔さんが受賞されたことは喜ばしい限りです。

根室支部では第17回に土屋広志さんが「ター坊とミーコ」で大賞と文部大臣賞を受賞以来46年ぶりの快挙です。

大賞の小林さんは81歳で現役の会社役員です。長年のためまぬ写真活動と努力の賜物です。

支部は勿論、地元の写真愛好家や写真クラブの方々大きな喜びと励みになりました。



左から 辻の内 小林 田村

根室信金ロビーで写真展

支部活動の一つとして、昨年10月末に、辻の内、小林、田村で支部3人展を根室信用金庫本店大地みらいロビーで行いました。

又根室信金札幌支店(札幌駅前、北3西3藤井ビル)でも今年1月と6月に私達の全紙プリントが展示されました。次回はぜひご覧ください。

撮影地はたくさん

日本一早い日の出のノサップ岬、沖には貝殻島灯台が見え、6月初旬には貝殻島周辺のサオマエ昆布漁が始まります。



みずなら林

たくさんの漁船が出漁し、浜では家族総出で昆布干しを行う作業は絶好の被写体です。

またオホーツクの冬の季節風に削られ耐えた樹々が乱立する「みずなら林」も圧巻で、近くにはポニーも放牧されています。



風連湖 2月 大鷲と狐のバトル

冬の1月〜2月には風連湖に氷が張り、氷下網漁が始まります。

漁師さんたちの仕事場では、雑魚を放り投げる氷の上に、大鷲、オジロワシが餌を奪い合うバトルが繰り広げられ圧倒されます。この光景を狙って道内は勿論、全国から中には海外からも写真愛好家が集まります。四季を通じて自然豊かで被写体がいっぱい。ぜひ根室にお越しください。